

製品名: Emx2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10451**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	EMX2
別名	EMX2; Homeobox protein EMX2; Empty spiracles homolog 2; Empty spiracles-like protein 2
遺伝子 ID	2018.0
SwissProt ID	Q04743
免疫原	抗血清はヒト EMX2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

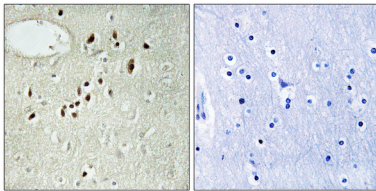
背景

この遺伝子は、ショウジョウバエの「空気門」遺伝子のホモログであるホメオボックス含有転写因子をコードする。ヒトにおけるこの遺伝子の研究は、背側終脳、嗅覚神経上皮、および尿生殖器系の3つの組織における発現に焦点が当てられている。この遺伝子

は、発生過程において背側終脳において、低い前側外側から高い尾側内側への勾配で発現し、大脳新皮質を特定の機能領域へとパターン化することが示唆されている。また、胚および成体の嗅覚神経上皮にも発現し、そこで真核生物翻訳開始因子4E (eIF4E) と複合体を形成し、mRNA の輸送または翻訳を制御していると考えられる。発生過程の尿生殖器系では、上皮組織で発現し、HOXA10によって負に制御されている。選択的スプライシングにより、異なるタンパク質をコードする複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、Sedisease:EMX2 の欠陥が裂脳症の原因である [MIM:269160]。裂脳症は、大脳半球内に全層裂が生じる極めてまれな先天性疾患である。これらの裂は灰白質で覆われており、最も一般的には傍シルビウス葉領域が侵される。大脳半球の大部分が欠損し、脳脊髄液に置き換わっている場合もある。function:転写因子は EMX2 と協力して、発達中の脳において脳頂と弓状脳室の境界を形成する。OTX1/2 と組み合わせて機能し、発達中の中枢神経系の細胞運命を特定する可能性があります。類似性:EMX ホメオボックスファミリーに属します。類似性:1つのホメオボックス DNA 結合ドメインを含みます。組織特異性:大脳皮質。]

研究分野

画像データ



EMX2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。